

## 発熱の対処法



① 発熱は大事な防御反応です。病原菌を排除するために、体温中枢が体温を上昇させているのです。解熱剤でむやみに下げてはいけません。

② さむけの強いときは暖かくしますが、ふとんのかげすぎにならないようにしましょう。手足が熱いようなら、少し涼しくしてあげましょう。

粘着性の解熱シートは、0歳児では窒息の危険があるので使用しないでください。

③ 38.5℃以上で、苦痛を伴うようなら解熱剤を使いますが、熱を下げるためではなく、熱による苦痛をとるためとお考えください。39℃以上でも楽そうなら使わない方がいいです。

④ 解熱剤を使用する場合は6時間くらいは間隔を開け、なるべく1日2回までにしましょう。 ※6カ月未満の乳児は使用しない（低体温の危険）

熱を下げすぎると、病気を長引かせます。楽になっても安静に。

5日間以上の高熱は要注意。 検査・点滴考慮。 入院も。



### 38℃以上の発熱があったら

#### 生後0～1か月

一見元気で食欲があると思っても、とにかく早めに受診する

#### 生後2～3か月

ミルクの飲みもよく、機嫌もよければあわてることはないが、24時間以内に受診する

#### 生後4～5か月

ミルクの飲みもまあまあで、機嫌もそれほど悪くなければ、夜間にあわてることはなく、翌日以降の受診で大丈夫。でもまだあまり熱を出す月齢ではないので、翌日には受診を

#### 生後6か月以降

食欲や機嫌がまあまあであれば、夜間や休日（連休を除く）にあわてて受診することはないが、翌日以降にでも小児科へ



# ハピネス こども クリニック

お問い合わせは…

087-848-9178

